

平成30年度 足立区地域自立支援協議会 相談支援部会 報告書

平成31年2月21日 平成30年度足立区地域自立支援協議会 第2回本会議配布承認済

<部会の目的>

障がい児・者の地域生活において、切れ目のない支援を実現するため、相談支援に関する諸課題を検討・整理し、相談支援体制のより充実させる。またその仕組みについて検討する。

<平成30年度の重点課題>

学齢期から成人期への移行など、制度の変わり目で相談機関のつながりが薄くなる期間も、切れ目がなく継続的な支援を提供するために必要なことは何かを検討する。

<重点課題に対する取組み報告>

本部会の委員は、相談支援事業所及び、地域で障がい者や家族等からの相談を受けている方々である。部会の中で意見交換をする中で、各委員の活動を知らないことが多かった。そのため、各委員が、日頃どんな活動をしているのか、またどんな相談があるのか、などをお互いに認識を図る一年となった。今後の相談支援においての連携を進める上で、有意義な情報共有が図られた。

<取組みの中で抽出された課題>

- ① 障がいの種別や年齢によって相談窓口が異なり、わかりづらい。相談支援事業所のネットワーク等で、最初に相談を受けたところが、適切な機関等につなげることが出来るように、連携体制を構築してきているが、活用しきれていない。
- ② 教育と福祉の連携が必要であるが、現状途切れ途切れである。世代的な縦の連携を作る時に役に立つ育成会の「つなぐ」等のツールもあるが、知られていない。
- ③ 各相談支援事業所が、現在新規相談の対応が可能か否等のいわゆる“空き情報”などのサービス情報が適宜共有できる仕組みが欲しい。
- ④ 相談支援事業、相談支援専門員の数が不足していると思わざるを得ず、障がい者に必要な支援が行き届いていない懸念がある。現状を把握し、なぜ不足しているかなどの分析が必要と思われる。
- ⑤ 基幹相談支援センターの役割が不明確で、わかりづらい。民間事業所との役割分担を明確にし、わかりやすい相談支援体制の仕組みがあれば、上記の課題についても解決できるのではないかと。

<来年度以降の取組み>

- ① 部会を定期的で開催し、「どんなことが話題になったか?」「どんな困りごとがあったのか?」等のトピックスを各委員が報告し、情報共有を図る。そのうえで、すぐに解決可能と思われる事項は、各所管にその都度報告していく。
- ② 相談支援は、他の様々なサービス機関と関わる。よって、他の部会でどのような課題が確認されているかなどの情報を共有していく。